

風景の中で 10

海外でのレコーディング その3 図書館長 井上 郷子

先回のエッセイでは、ドイツにおける「公共放送とレーベルとの共同制作（コ・プロダクション）」についてお話ししました。今回は、レコーディングの現場の話です。

もしよろしければ、私が、2012年末に、ケルンの西部ドイツ放送局（WDR, Westdeutscher Rundfunk）でレコーディングした様子がYouTubeにupされていますのでご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=Rb1orM8B8U0>

ここに登場する人々の中で、レコーディングの現場で最も権限をもち、仕切っている人が「トーンマイスター」（Tonmeister）です。「マイスター」とは、ドイツ語で「親方」を意味し、例えば、ワーグナーの楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》は、ジンガーが「歌手」ですから、マイスタージンガーは「親方歌手」といった意味になります。同様に、「トーン」は「音」ですので、トーンマイスターは、「音に関する親方」とでも言いましょうか。レコーディングの現場には、複数のスタッフ、つまり、トーンマイスター＝音楽プロデューサー・ディレクター、トーンエンジニア＝バランスエンジニア、トーンテクニカ＝音声技術 という人たちがいますが、このうち、

トーンマイスターとトーンエンジニアは、音楽大学で学位を修めた人が担当していることが多いと聞いています。

ドイツではトーンマイスターを養成する教育カリキュラム（大学4年＋修士課程）が整備されていて、国家資格があります。それを修めた人たちが、劇場や放送局やレコード会社に就職し、キャリアを積みます。ドイツでは、デットモルト音楽大学やベルリン芸術大学がトーンマイスター教育では知られ、デットモルト音楽大学には、創始者であるエーリッヒ・ティーンハウス教授の名前を冠した研究所、Erich-Thienhaus-Institutが設立され、「トーンマイスター、それはアートとテクノロジーの間のプロフェッショナル」などと謳っています。一方、ベルリン芸術大学のホームページには、「トーンマイスターは音楽制作の中で、芸術的部分と技術的部分のリーダーとしての役割を果たす。その仕事は演奏者のパフォーマンスとメディアの間をつなぐことであり、そのためには音楽の理解・共感と創造性、優れた聴覚と技術的な知識が求められる。」とあり、まさにその通りだと思います。（次号に続く）

資料の部屋 10

なぜ「偶然性」を用いたのか？

澁井 響子

ジョン・ケージがサイコロを用いて作曲を始めた1950年代。カールハインツ・シュトックハウゼンやピエール・ブーレーズもまた、断片化された五線譜が印象的な《ピアノ曲 XI》、《ピアノ・ソナタ 第3番》を作曲しました。これらの作品は楽譜から音になるまでの過程に偶然性が介入することから、一般に「偶然性の音楽」と呼ばれているものです。

《ピアノ・ソナタ 第3番》はブーレーズが初めて偶然性を用いた作品とされていますが、実はそれ以上に議論を呼ぶ作品でもありました。ブーレーズが同年に発表した論考『骰子』の中で、ケージの偶然性を「怠慢による偶然性」、自身の偶然性を「管理された偶然性」と対置したからです。

ケージの《易の音楽》は一見普通の楽譜のように見えますが、これらの音の諸要素はすべてサイコロを振り偶然出た目に従って決められています。一方、ブーレーズの《ピアノ・ソナタ 第3番》は確定的な部分の間に不確定な部分（偶然性）が入り込むように作曲されています。「偶然性」と一口に言っても用い方が違うのです。でも、なぜ？前者がこのような作曲法に至るには、禅思想

を背景とした“作曲者の恣意性を介さない”作曲方法の模索があったのであり、後者の場合、1つの作品として完成されていないながらも性質としては“動的な”構造体の創作を目的としていたからです。考えていることが違えば、用い方も異なるのです。

このように作曲方法1つ取っても、丁寧に見ていけばその内奥には作曲家のひとりの人間としての姿がありありと浮かぶものです。だから私は音楽が好きです。作品を追うのはとても大変なことですが、どうぞ挑戦してみてください。

<関連資料>

ブーレーズ《ピアノ・ソナタ 第3番》

※この楽曲は5つの部分で構成されており、現在そのうち3つが出版されています。

- ・Troisième sonate pour piano (1955-1963) : formant 1-antiphonie / Pierre Boulez Universal Edition, c2019 請求番号●G35-677
- ・Troisième sonate pour piano. Formant 2, trope / Pierre Boulez Universal Edition, c1961 請求番号●G15-952

・Troisième sonate pour piano. Formant III/2, miroir / Pierre Boulez Universal Edition, c1963 請求番号●G15-815

ケージ《易の音楽》

- ・Music of changes : piano / John Cage. C.F. Peters, c1961 請求番号●G3-639 (1)、G3-640 (2)、G3-642 (3)、G3-641 (4)
- シュトックハウゼン《ピアノ曲 XI》
- ・Klavierstück XI : Nr. 7 / Karlherinz Stockhausen. Universal Edition, 1975, c1957 請求番号●G15-159

しづい きょうこ(図書館嘱託職員) ● ブーレーズの訃報を聞いた2016年。衝撃とともに1つの時代の終わりを感じたのでした。